

## 2-2 教育改革事務部門管理者会議

本会議は、未来を託す若者に最良の教育を提供できるように職員の立場から、全学的にすすめるアクティブ・ラーニングの教学支援体制やICTを活用して効果を高めている学修環境を考察することを目的に実施している。

### (1) 開催計画の策定

会議の目的は、平成29年度までの5年間の「大学改革実行集中期間」において、学生が主体性をもって社会の変化に積極的に対応できるよう、職員の立場から全学的に進めるアクティブ・ラーニングの教学支援体制やICTを活用して教育効果を高めている学修環境の考察を目指している。

プログラムとしては、一つは60分はクリッカーを用いて情報量を重視した講義を行い、後半の30分は知識の定着を重視したグループディスカッションを行い、発表させるとともに、毎回受講者にレポートを提出させる北海道大学の「大規模授業でのICTを用いたアクティブ・ラーニングの実践」を紹介する。二つはアクティブ・ラーニングの全学的な展開に向けて教員も学生も相互に授業を振り返るポートフォリオの作成、教員同僚会議や学生相互による目標達成度の点検、学修成果測定の可視化などの教学マネジメント体制の工夫、ラーニング・コモンズで上級学年生によるスタディ・スキルの学修支援を実践している創価大学に「アクティブ・ラーニングに求められる教学マネジメントと学修環境の充実に向けて」と題して教育を革新する展望を紹介いただくことにした。

講演の後で関連情報の提供として、産学連携によるPBL型授業の紹介、反転授業の取り組みのポイント紹介、アクティブ・ラーニング対話集会の状況、補助金の執行状況、投資額調査の結果、3年間隔で行う情報環境調査の説明などを予定し、以下の開催計画を策定した。

### 教育改革事務部門管理者会議開催要項

日 時：平成26年11月28日（金）13：00～16：30

場 所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）5F大雪の間

1. テーマ 「アクティブ・ラーニングに求められる学修環境作り」
2. 開催趣旨

既成概念やしがらみにとらわれず、未来に立ち向かっていく若者世代の力を如何に向上させることができるかが、大学教育における喫緊の課題となっております。

国は、平成29年度までの5年間の「大学改革実行集中期間」として、学生が主体性をもって社会の変化に積極的に対応できるよう、アクティブ・ラーニングをはじめとする教育の質的転換、地域社会や世界を視野に活躍できる人材の育成を目指して、全学的に改革行動に取り組む大学を重点的に財政支援するとしています。

とりわけ、教育機能の充実・強化の対応として、教室内で対話を取り入れた双方向型の学修、教室外での事前学修の徹底による学修時間の確保、教学マネジメントの体制整備が要請されており、大学としての「革新力」が問われています。

そこで本会議では、総力をあげて未来を託す若者に最良の教育を提供できるように職員の立場から、全学的にすすめるアクティブ・ラーニングの教学支援体制やICTを活用して効果を高めている学修環境を考察することにしました。

3. プログラム

13:00 開会挨拶

向 殿 政 男 氏（私立大学情報教育協会会長）

13:05 講 演 「大規模授業でのICTを用いたアクティブ・ラーニングの  
実践」

コース・マネジメントシステムにテキスト、小テスト、レポート機能を掲載して  
予習環境を構築した上で、大教室でICTを活用した双方向型の講義と学生同士に  
よる対話型演習を実施する授業は、人的経費を増加させないで講義をアクティブ・  
ラーニングに変換していく点で大学経営にとって重要。授業90分の内、60分は  
クリッカー等を用いて情報量を重視した講義、30分は知識の定着を重視したグル  
ープによるディスカッションの機会を設け、その結果を発表させるとともに、毎回受  
講者にレポートの提出、小テストなど評価に取り組んでいる事例を通じて、今後の  
課題を紹介いただきます。

講 師： 鈴木 久男氏（北海道大学高等教育推進機構副機構長）

14:05 休 憩

14:20 講 演 「アクティブ・ラーニングに求められる教学マネジメントと  
学修環境の充実に向けて」

一方向的な授業から、教員と学生、学生同士による対話を取り入れた学生参加型  
授業へ大転換させるために、教員の意識変革が大きな課題となる。アクティブ・ラ  
ーニングの全学的な展開に向け、評価ルーブリックによる学修成果の測定、各科目  
間、各教員間の相互調整などの教学マネジメント体制の工夫やラーニングコモンズ  
における上級学年生などのファシリテータによる学修支援、学生や教職員が「学び」  
をテーマに30分枠で報告し合う試みなどを通じて、アクティブ・ラーニングを充  
実するための課題を紹介いただきます。

講 師： 西浦 昭雄氏（創価大学学士課程教育機構副機構長、総合学  
習支援センター長）

15:20 休 憩

15:30 関連情報提供

「主体性を引き出す産学連携PBL授業（FSP研究会）の紹介」

「反転授業の取り組みについて」

「本協会における分野別アクティブ・ラーニングの対話集会」

「情報関係補助金の執行状況」

「平成25年度情報投資額調査の結果」

「平成26年度情報環境調査の実施」などを予定

16:30 閉 会

## (2) 開催結果

参加状況は、34大学から49名が参加した。

### [他3] 研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメント  
の貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの  
講演、事例紹介の著作権処理済のコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、  
希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツは24年度144件、25年度141件、26年度173件の計458件と  
なっている。コンテンツ使用にはWindows 7のPC環境が必要である。

26年度分の配信分担金は、正会員32,400円から54,000円、賛助会員は一律  
43,200円などで、24年度分はすべて無料としている。利用人数は無制限で参加申込  
みはWebで行っている。